

防災避難を通して市民協働を学ぶワークショップ

～「風水害 24」ゲームで体験！～

防災避難の考え方をもとに、カードゲームを用いたワークショップを行い、団体活動の中でそれぞれの役割を考えるきっかけとして、また、市民協働の力で防災や気候変動にどのように対応していくかを考えることを目的としたセミナーを開催しました。

日 時:令和4年 10 月 30 日(日)13:00~16:00

会 場:市民交流施設「ぷらっと」(C・D会議室)

講 師:高橋 優介氏(ワークショップデザイン describe with 代表)

内 容:



●ワークショップ「風水害24」



(1)ゲームの概要

今、参加者がいるのは、架空の海沿いの街。住宅街の中を川が流れている。各地区に様々な属性の住民がいるが、過去最大級の超大型台風が24時間後に直撃する予報が出ている。

様々なアクションの選択肢から1ターン毎に1つのアクションを選択し、10ターン後に最後まで生き残る行動を選択していく。

(2)ゲームのルール

1名から3名で各役割を持った住民がチームとなり、初期で100ポイントのライフが付与されている。16の机は居住区で、沿岸部、避難所、高台など、エリア毎の特性がある。

各ターンの最初に、現在の状況がニュースとして流れる。その後60秒以内に、10種類あるアクション(1エリア分の移動、各種物品等の取得など)の中から1つを、状況に応じて選択する。

選択の結果、周辺の状況が開示され、ライフが変動する。10ターン後までライフが0(死亡)とならず、出来れば50以上の状態で生き残ることがミッション。

また、可能であれば、周囲の地域住民(場に置かれているカード)を、出来るだけ助けることもミッションに含まれる。



(3)ゲームの様子

今回のチーム編成は12チーム。最初の数ターンは、移動・物品取得等、各チーム滞りなく進んだが、緊急ミッションとして、一部の地区で感染症が発生。そのエリアに滞在しているチームのライフが、今後のターン毎に10ポイントずつマイナスになることを皮切りに、各卓の地域住民カードを助けるかどうかの意思決定によって生じるポイント減、災害のレベルが上がったこ

とに伴う各エリアへの被害発生によるポイント減が次々に発生した。

ターンが進んで警戒レベルが上がるにつれて、一度に失うライフポイントの値も多くなり、最終的に生き残ることが出来たチームは12チーム中7チームだった。

●ワークショップの振り返りとセミナー

12チーム中、生存したのは7チーム。

ライフ100ポイントで無傷の生存が4チーム、60～90ポイントの軽傷が1チーム、10～50ポイントの重傷が2チーム、0ポイントとなって死亡したのは5チームという結果であった。

また、22枚あった地域住民カードのうち、救出できたのは11枚だった。

ゲーム終了後、2～3チーム毎にグループを作り、お互いの行動の振り返りを共有した。

- ・ハザードマップについて。避難所が2箇所あることは、ハザードマップを手に入れた人じゃないと分からない。
- ・高台だからいいかと思ったら、土砂崩れが発生した。家の補強を行っても、このレベルの災害下ではダメージをゼロには出来ない。
- ・車の利用は時と場合による。災害初期は移動の有効手段だが、警戒レベルが高くなると逆にリスクになることもある。
- ・感染症は、人が集まる場で発生する。このゲームは、コロナ禍以前に作成したものだが、感染症の設定がある。人が集まる場所が必ずしも安全ではない場合があるという点に気付いて欲しい。



今回のワークショップを通じて伝えたいメッセージは3点。

1. 死に至る状況を頭に入れておくこと。災害時の主な死亡の状況は、自宅水死、土砂崩れ圧死、車中での水死、徒歩移動中の被災の4つ。ワークショップで発生した事例を元に、それぞれ発生しやすい状況の説明があった。
2. 防災気象情報や避難情報に注意すること。災害の警戒レベルは、「4」で全員避難、「5」は既に災害が起きている状況。5になる前に避難が必要だが、現場で5になったら避難所へ移動する以外の選択が必要。

また、睡眠時や夜中などの情報収集の手段の確保も重要。

3. ハザードマップを読むこと。ハザードマップには色々な種類があり、ゲームで配布した



ものは全ての情報が載っているタイプで、ゲーム中に発生したイベントの土砂崩れの要素も載っていた。

一般的には洪水のハザードマップが多いが、地域に合った、その時起きている災害に対応するものを確認する必要がある。江別市のハザードマップを確認しながら、自分の住居のエリアだけでなく、他の地域からの避難の状況も考慮に入れておくこと。

まとめとして、2つの「そうぞう力」が必要になる。

「想像」:イマジネーション これからどんなことが起こるのか。

「創造」:クリエイト 自分がどんなアクションをとれるのか 普段からの備蓄や、住民同士の声掛け等など、災害時のダメージを減らしていける工夫。

以上の内容を、自分だけではなく、家族や職場、所属する団体のメンバーとシェアすることが大切。

また、近年増えているゲリラ豪雨や台風などは、そもそも地球の温暖化が原因。普段から、SDG'sへ配慮した行動を選択することも減災に繋がる。

参加者からは、「ハザードマップの重要性を理解出来た」、「命を守る選択のスピードが求められる」、「ゲームとはいえ、思いのほかパニックになった。普段からの情報収集やシミュレーション、心掛けが大切だと思った」、「江別市がSNSやメールサービスで防災情報を提供していることを知ることが出来て良かった」などの感想が寄せられました。